遺伝子組み替えイネいらない！

2006年10月

新庄水田トラスト情報交差点 No.50

神室山系ぶなの森　自然豊かな山形

あふれる生命力

水田トラスト栽培者　今田多一さんの田んぼのさわのはな

2006年度の水田トラストの収量がきまりました。事務局通信をご覧ください。

さわのはなものがたり

「さわのはな」が生まれた頃

「私の名刺には〝さわのはな〟ルネッサンスという文字を入れています。地域に適した〝種〟を守っていくことが、グローバル化に抗する道だと思っているからです。〝さわのはな〟に栄光あれ」(新庄水田トラスト栽培農家　佐藤恵一)

山形が生んだおいしいお米「亀の尾」の系譜をひく伝説の米、「さわのはな」は、1960年3月に誕生した。
耐冷性と耐病性が特徴で、冷害にも負けずに豊かに稔り、他の追随を許さない。また穂イモチ病や根腐れにも強く、条件の悪い環境でも他の品種にくらべて安定した生長を見せる。

まだ、農村が輝いていた49年に品種改良が着手され、元農水省東北農業試験場をはじめとする多くの人びとが、寒さや病気に強く・収量の安定したおいしいコメを、寝ても醒めても11年間求めつづけた力作だ。60年には輝かしい山形県の奨励品種にも指定され、いとしい・まぶしいこのコメに、彼らは心をこめて「さわのはな」と命名し、前途を祝した。

「耕す者に土地を！」—当時の農業は、画期的な農地改革によってうまれた自作農体制を基礎に、コメ・麦に小規模畜産を組み合わせた有畜複合経営による総合的な食料の増産を目指していた。
しかし、その理念を実現すべく生み出された「さわのはな」の栄光は、誕生した時にはすでにかげりがさしていた。

「ネットワーク農縁」の誕生

95年3月、雪の残る新庄で「ネットワーク農縁」が結成された。ますますいびつになっていく都市生活と、農村の疲弊を、共に超えていこうとする都市エコロジストと農民のアソシエーション(協働)である。

日本の農家は、時代に翻弄されつづけてきた。49年の中華人民共和国の誕生は、自立しはじめたばかりの日本の有畜複合農業を根底から変えた。50年の朝鮮戦争を経て、工業立国への転換と表裏をなす農業基本法(61年)で、農業の近代化・工業製品輸出とバーターの農産物輸入がはじまる。農民たちは70～80年代の農閑期を出稼ぎとして工業立国を支え、いくたの家庭崩壊の悲劇を経験しつつ農家は衰退していった。

都市に若者をとられる他方、化学肥料・化学農薬の大量使用で里・川・海の生態系はダメージを受けた。水田から生き物の輝きが消えた。

地域は個人個人の金取り話だけが目立っていった。“お祭りがつまんなくなったのよ。それが嫌でさあ”28歳の高橋さんは……自分も含めた地区の“放蕩息子”を集め「豊稲会」を旗揚げした。“ディスコ通いの毎日だった”という集まりも……仲間意識が強まり、稲作研究会へと発展。研究会は出稼ぎ先の東京・北区にも持ち込まれた。そこから市民活動の人たちへと縁が広がった。(『風の肖像』河北新報社編集局編126頁)

「結」が盛んな独自文化、祭りの輝きを取り戻したい、そんな感覚から出発したネットワーク農縁の百姓たちは、当時30代～40代の元気な農家14人である。

「“これをみてみろ”持ち込んだ無農薬栽培のコメ“さわのはな”のご飯を指した。“クロっぽい点が見えるべ。これはカメムシがコメの汁を吸った跡なんだけどさあ、ほら、食ってもなんともねえべ”。八王子の子育てサークルの子連れの若いお母さんたち8人がうなずく。“見栄えのためには、農薬を使ってカメムシを駆除する。みんながいつも食べているのはそういうコメだよ…。さわのはなも市場には出ないコメだ。これは化学肥料が苦手で農薬が嫌いだから、つくる農家が少ない。んでも、味は最高。農家とつながっていないとこんなコメは食べれねえぞ”」

「都市耕作隊」—首都圏で行う独自のゲリラ的キャンペーンを彼らはこう呼ぶ。販路拡大よりも、消費者のナマの声につながることで自分たちの農業の方向が見えてくる。14人はそう確かめあっている。「大豆畑トラストのきっかけになった遺伝子組み換えのことだって、はじめはみんな知らなかったさ。会員から言われて勉強したら、これは大変だって」

「水田トラスト」とは

2000年、これまで50年以上つづいてきた耕作主義(注・農地を適正に耕作している人だけに農地の売買、賃貸借を認める農地法の基本理念)の放棄と、遺伝子組み換えイネの登場でコメ作りの現場は揺れ動いた。その激動の中で、従来の産消提携のあり方を越えようと「水田トラスト」が提起された。豊かなブナ原生林が残る雄大な山々に囲まれた新庄盆地に“さわのはな”を復活しよう！、と。
お百姓たちは誇り高く宣言した。

「あきたこまち、ひとめぼれ、はえぬき……とは別に農家が自分で食べる分だけ作っているコメがあります。昭和30年代から作りつづけているコメで〝さわのはな〟といいます。普通、コメは梅雨になると食味が落ちますが、この〝さわのはな〟は梅雨を越しても食味が落ちないという不思議な特性を持っています。……誰に知られることもなく、この新庄の地でひっそりと生き続けています。東北・山形が生んだ文化遺産ともいうべき、この在来種をトラストにかけます。来るべき遺伝子組み換えを撃つために。トラストは、人、農業、生態系のルネッサンス！　まずは新庄から、そして全国へ広げていきましょう」(佐藤恵一)

市民トラスト運動とは、そのシステムの中に参加する人びとの、生態系再生と循環型社会への強い希求と、共に実現することへの信頼を埋め込んでいる運動である。2000年2月に生まれた新庄水田トラストは、市民が出資して水田をトラスト（相互信託）する運動で、生態系を修復する無化学肥料・無農薬農業はもちろん、遺伝子組み換え農産物を作らないことを意志表示する。スタートして5年、毎年開催される「収穫をよろこぶ集い」で、会員たちがトラスト運動への誇りを熱く語っているのを聞くと、農業に生きる人びとと共に新しい社会をうみだしつつあるという確かな手ごたえを感じる。

新聞で水田トラストが「遺伝子組み換えコメへ危機感、在来種存続へ消費者と協力」（毎日新聞）と報じられると、すぐに反応があった。「こんな運動が必要だと思っていました。一人では何もできなくて待っていたんです」「新聞で皆さまの運動を知り、心が暖かくなりました。とても楽しみにしています」次々と寄せられる人びとの発言に、私たちは生態系の再生と共生への願いがいかに強いものであるかを確信した。現代の社会に抗する時代感覚を要求するトラスト運動は、〈安全な食〉を求めるレヴェルからの飛躍を迫る。水田トラスト運動に参加した人びとには、自らの納得する社会を創ろう、社会に対する責任を引き受けようとする積極的な姿勢が現れている。

青年たちの環境団体A SEED JAPANの若者たちが、毎年田の草取りを続けている。彼らは6月の終わりに貸切バスで40～50人がやってくる。2日かけて田んぼを這い草取りをし、夜は百姓たちと遅くまで交流する。あるいは、新庄バイオマスセンターの研究者と意見を交換し、新庄農業大学校の生徒たちと語りあう。誠実に主張した。

昨年11月には、NGOのイベント「Be Good Cafe」に「社会的責任投資とおコメ」というテーマで招かれ、新庄のお百姓衆5人は堂々と

「ネットワーク農縁も今年で10周年を迎えることができました。この間大豆トラスト、水田トラスト、水の検査、バイオマスの試みなど、食の安全、環境問題に取り組み続けてきました。これからも皆さんと共にさらなる進化をしていきたいと思っております」（星川公見）

アソシエーションの波

「アソシエーションとは、諸個人が自由意志にもとづいて共通の目的を実現するために財や力を結合する形で社会を生産する行為を意味し、またそのようにして生産された社会を意味する」（田畑稔『マルクスとアソシエーション革命』）。いま私たちは、水田トラストを、新しい21世紀型のアソシェーションとして、多国籍企業が強要している遺伝子組み換え作物に抗する運動として、推し進める。多国籍企業の目的は、特許という手段による種の支配、生き物の支配であり、46億年の地球の生態系の循環、生物の歴史に取り返しのつかない危機を招きつつある。

5

「名刺の肩書きは『百姓』。何とわかりやすく誇らしいこと。正直言うと確かに見た目の第一印象は地味な米。しかし食べてみれば目からうろこ。わが家は朝食も米が主流となった。今日も子どもたちは朝からおかわり……」(「さわのはなを食べる会」に参加した小金井のK・Uさん)。

「さわのはな」とその栽培者たちはファンを広げながら、会員と共に楽しみ・慈しみつつ世界の現実に立ち向かっている。

阿部文子(新庄水田トラスト事務局)

遺伝子組み換え食品の過去・現在・未来

植物から動物へ、そして人間へ

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン 10周年記念集会&記念パーティー

日　時：２００６年１２月２日(土)　　シンポジウム　１時～４時30分
　　パーティー　　５時～７時

場　所：全郵政会館（渋谷区千駄ヶ谷1-20-6　TEL 03－3497－1655）
　　ＪＲ中央線千駄ヶ谷駅下車徒歩３分、都営大江戸線国立競技場駅下車徒歩３分

参加費：シンポジウム１０００円、パーティー２０００円（パーティーのみ要予約）← 注目！

シンポジウム（１時～４時半）

第1部　10年をふりかえって

遺伝子組み換え作物で何が起きたのか
遺伝子組み換え作物は農業をどう変えたか
生命操作に疑問を呈して
反対運動の10年
グローバリズムとGM作物

第2部　GM動物食品がやってくる

動物がおかれている現状
遺伝子組み換え動物食品とは
コーデックス・バイテク部会の報告

第3部　これからの10年

動物から人間へ、これから何が問題となるか
（ここでの議論は記念パーティーに引き継がれます）

記念パーティー（５時～７時）

国産 100%、遺伝子組み換えでない食べ物を食べるパーティー
（共催団体から提供された食材で、アシード・ジャパンの若い人たちが作ります）

主催：遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン
共催：生活クラブ、グリーンコープ、大地を守る会、トージバ、ネットワーク農縁、ＡＬＩＶＥ、日本有機農業研究会、農民運動全国連合会、生命特許はいらない！キャンペーン、ＳＮＮネット、日本消費者連盟、ＤＮＡ問題研究会　ほか

夜の記念パーテイだけでも　参加できますョ。

遺伝子組換え稲No!

6

水田トラストの農家　在来種【さわのはな】を守ろう！

笹　輝美（愛称：てるみさん）

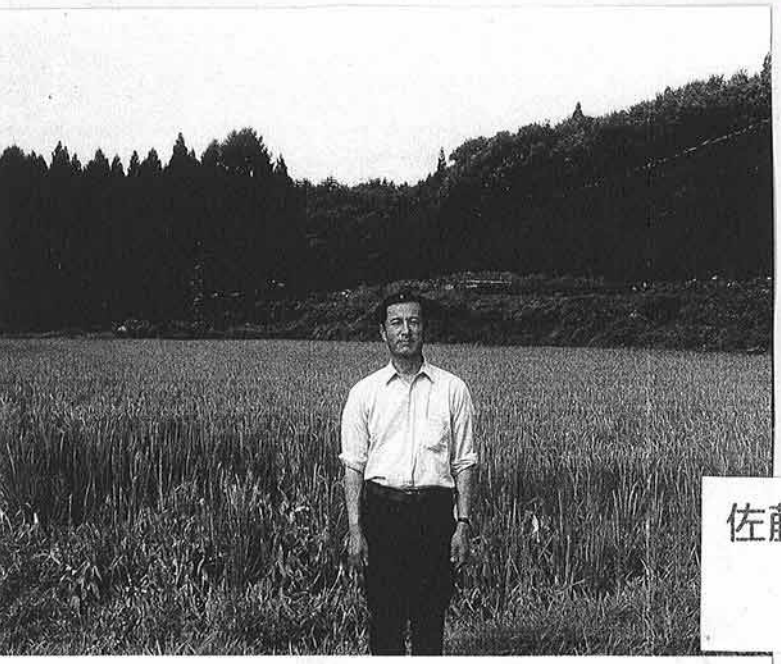
〒999-5102　新庄市仁田山228

TEL&FAX：0233-25-3176

高橋　保廣　（愛称：やすひろさん）

新庄市十日町2082　TEL：0233-22-2342

FAX：0233-22-9628



佐藤　恵一　（愛称：けいいちさん）

新庄市飛田927-8　TEL&FAX：0233-29-2085

星川公見　（愛称：ひろみさん）

新庄市仁田山261　TEL・FAX：0233−25−3232

今田　多一　（愛称：たいちさん）

新庄市十日町4393-2　TEL&FAX：0233-22-7255

吉野　昭男　（愛称：よしのさん）

新庄市鳥越1186　TEL&FAX：0233-22-7265

遺伝子組換え稲No!

在来種【さわのはな】を守ろう！

メッセージ

①トラストは心と心の信頼・交流
　お金とお米の交換をこえて！
②遺伝子組みかえ、人の心もくみかえる！
③止めよう、農業コンビニ化！
④守ろう“幻の米”さわのはな！
⑤広めよう、神室山系新庄の蛍とんぼの元気な水田！

星川　吉和　（愛称：よしかずさん）
新庄市仁田山 267　TEL&FAX：0233-25-3228

遠藤　敏信　（愛称：としのぶさん）
新庄市鳥越 1311　TEL&FAX：0233-22-6365

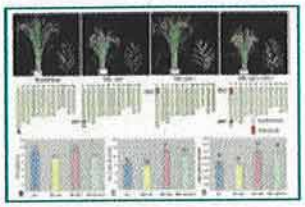
「GMO」もんだい

すなわち人工的に遺伝子を取り出し、操作すること

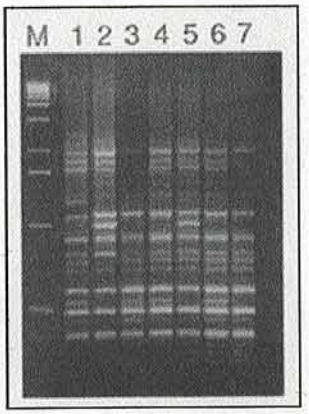
9

MAS:DNAマーカー選抜技術について

text:遺伝子組換え情報室 代表・河田昌東



MASは「Marker Assisted Selection」の頭文字をとったものです。これまで品種改良は、表に現れた「形質」を目安に交配で新たな形質を持ち込む、という手法で行われてきました。しかし、分子レベルの遺伝学が進歩した結果、個々の遺伝子自体を目印にして交配が出来るようになりました。例えば、美味しいが病気に弱い品種と、不味いが病気に強い品種を交配して美味しく病気にも強い品種を作り出す場合、従来は、交配した子孫が「美味しく病気に強い」ということを確認するまで、交配が成功かどうか分かりませんでした。



しかし、MASでは、美味しい原因の遺伝子が何処にあるかを特定し、病気に強い原因の遺伝子の場所も確認してから交配します。すると、種子が出来た段階(あるいは発芽した段階)で、それらの遺伝子が存在するかどうかをチェックすれば、交配が成功かどうか分かります。従って、交配品種が実をつけるまで待たなくても良くなります。MASは従来の交配の延長上の技術です。

その結果、交配による品種改良のスピードが飛躍的に早くなりました。このことから分かるのは、MASでは「有性生殖で交配可能な生物同士しか遺伝子の混合が出来ない」ということになります。この点が、従来の遺伝子組換えと全く違う点です。
遺伝子組換えでは、種の壁を越えて遺伝子を持ち込むわけですから。
勿論、種が違っても「交配可能なら」MAS技術は利用できることになりますが。

すでに日本でも各所の研究者が始めています。遺伝子組換えイネの研究を断念した、愛知県農業試験場のKさんは、いもち病に強いアジアの野生イネの遺伝子を特定し、MASでいもち病耐性のイネ(ジャポニカ)の作出に成功しています。
リフキンの文章(朝日新聞2006年8月31日・14面「私の視点」に掲載された)は、現在の遺伝子組換えが、例えば細菌の除草剤耐性遺伝子などを植物に持ち込む結果、汚染が広がればMAS技術による利点も台無しになってしまうことを警告したものです。
そんなわけで、私はMAS技術は大いに評価すべきものと考えています。

追加です。
MASを利用すれば、いわゆる遺伝子組換えで目的遺伝子が確かに導入されたかどうかも速やかに確認できるので、遺伝子組換えの効率化を計ることも出来る点は注意しなければなりません。

2006 年度の会員さんへ　お米のお受け取りについて

それぞれの栽培担当お百姓さんから連絡がいきます。

そのとき、1、何月何日から、2、玄米か、七分つきか、3、一回で全部か　毎月 10 キロづつか、4、送り先の確認など、話し合ってください。

その他、なんでもお聞きになりたいことなどがありましたら、お百姓さんと話すよい機会ですのでお聞きになってください。

事務局は自宅をかねておりますので、夜 9 時までお電話をお受けしています

遠慮なくお電話ください。　　新庄水田トラスト事務局　阿部文子

先端技術「ゲノミックス」登場

MAS:DNAマーカー選抜技術の紹介

text:田中正治

米国の文明批評家で遺伝子組み換え問題でのアクティビストでもある「バイテク・センチュリー」(集英社・1999年)の著者ジェレミー・リフキンが、"遺伝子組換え農産物は時代遅れで、科学進歩の障害とみなされるようになっている"と主張しています。

「GM(遺伝子組み換え)はダメで、遺伝子選抜はOK。時代遅れの遺伝子組み換えをほっておくと、遺伝子選抜の有効性が損なわれてしまう」MAS:DNAマーカー選抜技術 2006/07 Washington Post Beyond Genetically Modified Crops By Jeremy Rifkin (ジェレミー・リフキン)

2006年7月のワシントン・ポストの記事と基本的に同様の内容が、朝日新聞 2006年8月31日・14面「私の視点」に掲載された。◆遺伝子操作 組み換え作物は時代遅れに◆

その要点は・・・

1. 「今、ゲノミクスとよばれる最先端技術が登場し、遺伝子マーカーで形質の遺伝を追跡するマーカー利用選抜(MAS)と呼ばれる最新農業技術で、伝統的な育種を加速できるようになった。GM農作物は時代遅れで科学進歩の障害とみなされるようになっている。」

2. 「MASは市場に導入済みで、GM食品に取って代わると考える科学者も増えている。GM作物に反対してきたグリーンピースなどの環境保護団体も徐々にMAS支持に転換している。」

3. 「遺伝子組み換え技術に代わり、科学者達はMASを利用し、特定の食用作物の他の品種または近縁野生種から望ましい形質を見つけ出し、それらの植物を既存の商品価値の有る品種と交雑育種することで、品種を改良している。」

4. 「問題は、GM技術を引き続き利用すると、既存の植物品種を汚染し、MAS新技術の利用が難しくなることだ。」

5. 「今後、MAS技術がより安価で利用が簡単になり、ゲノミクスの知識がより普及して入手が容易になれば、世界中で情報交換や技術の民主化ガ可能になるだろう。彼らは既に、IT企業が現在シェアウエアとしているリナックスなどのように、遺伝子のシェアーを念頭に置いて「オープンソース」ゲノミクスという表現を使い始めている。」

6. 「遺伝子情報を積極的に共有し、持続可能な農業を意欲的に推進する若い世代と、特許保護により世界中の種子に関する支配権を堅持したい企業の科学者との争いは、とりわけ途上国で激しくなるだろう。」

ジェレミー・リフキンのスタンスは、「バイテク・センチュリー」で次のように述べている点に現れています。

「問題は、バイオテクノロジーの世紀において、我々はどのような種類のバイオテクノロジーを選ぶかということなのだ。植物や動物のゲノムに新しい知識を応用して、遺伝子操作により「スーパー作物」や遺伝子組替え動物を作り出すのか、あるいは新しいテクニックで環境保全的な農業や、もっと人間味のある動物飼育を進めるのか？集めている人ゲノム情報を用いて、我々の遺伝子構成を変更するのか、あるいは新しい複雑な予防療法を追求するのか？」(P316)

「遺伝子操作は結局、支配的な地位を、生物圏という意識にもっと調和した考え方をする生態学者に奪われる可能性があるのだ。もしそういうことになれば、バイオテクノロジーの世紀においては、環境保全や予防治療という取り組み方をするもう一つのバイオテクノロジーが、遺伝子操作技術に取って代わるかもしれない」(P318)

GMOフリーゾーン宣言運動
第2回全国集会

2006年11月26日(日)

主　催　遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン
受入団体　生活クラブ生協・千葉、元気クラブ、大地を守る会

14時～17時　第2回GMOフリーゾーン全国集会

会　場：国民宿舎「飯岡荘」（千葉県旭市）会議室　＜ＪＲ総武本線・飯岡駅下車＞
参加費：１０００円
講演　「世界で広がるGMOフリーゾーン運動」　天笠啓祐
各地からの報告（韓国のウリ農生協の方も参加されます）
海のGMOフリーゾーン、牧場のGMOフリーゾーンへのよびかけ

18時～20時　交流会

会　場：国民宿舎「飯岡荘」（千葉県旭市）会議室　＜ＪＲ総武本線・飯岡駅下車＞
参加費：５０００円
千葉県特産のいわし料理を食べながら交流を深めます。
世界各国でGMOフリーゾーン運動に取り組んでいる生産者や科学者からのビデオメッセージを上映（シュマイザーさん、プシュタイさんなど）

宿泊　会　場：国民宿舎「飯岡荘」
宿泊費：５０００円

2006年11月27日(月)

9時～12時　里のGMOフリーゾーンツアー

集合場所：国民宿舎「飯岡荘」前8：45、ＪＲ総武本線旭駅前9：15
参加費：２０００円
GMOフリーゾーン宣言農家やしょうゆメーカーなど地元の人々と交流します。

14時～17時　海のGMOフリーゾーンツアー

集合場所：ＪＲ京葉線・南船橋駅改札口14：00
参加費：３０００円
東京湾稀少の干潟「三番瀬」やあおさプロジェクトなどを見学します。

27日は幕張でコーデックス委員会へのアピール行動があります。里のフリーゾーンのみ時間帯が重なりますので、ご注意ください！ご参加をお待ちしています。

＊くわしい案内（参加申込書）があります。キャンペーン、または受け入れ団体あてご請求ください。
＊参加申込書の提出〆切は10月31日(火)必着でお願いします。

事　務　所：〒296－0232
千葉県鴨川市平塚字大沢2502
山形・新庄水田トラスト事務局

電話／FAX：0470－98－0350（阿部/田中）

口 座 番 号：00230-3-37705「新庄水田トラスト」

E－mail：阿部　文子

事務局通信

2006年度　水田トラスト米の収量のお知らせ

2006年度　水田トラスト米の収量は、一口あたり　玄　　米　37キロ
七分つき　33・5キロ

とさせていただきまいした。

その計算の基礎は、以下のようになっています。

笹　輝美	一反300坪より	6・5俵=390キロ
星川　公見		6・5俵=390キロ
高橋　保広		6・5俵=390キロ
吉野　昭雄		6・5俵=390キロ
今田　多一		6・5俵=390キロ
遠藤　敏信		6・5俵=390キロ
佐藤　恵一		5・5俵=330キロこなぎの発生で減収
星川　吉和		5・0俵=300キロいもち病の発生で減収
		合計2970キロ÷8=371キロ

一口当たり　玄米　　37キロ　七分つき　33・5キロ

来年の対策として、田んぼを変える、肥料の量の再検討をしていく、などの意見がでています。11月2日、事務局の阿部文子が新庄に行き、意見交換をしてきたいと思っております。

水田トラストは、1960年から始まった、化学肥料・化学農薬に依存する近代農法から脱し、多国籍企業が強引に推し進める、遺伝子組み替え作物への対抗システムとして、生まれました。
それは、持続可能な土地・環境をひろげ、有機農業と有機農家を支持する都市住民の運動として、注目されています。
それはまた、それぞれが仕事を続けながら、食事をとおして、持続可能な社会の健康とは何かを、都市住民と農家が、ともに考える契機ともなっています。

水田トラストは、これまでいろんな役割をはたしてきました。

有機農産物流通組織「らでっしゅぼーや」との縁を結び、今年は、30代若者が主催する、東京朝市アースデイマーケットへとつなげてくれました。
そこから縁は広がって、APバンク・プロジェクトのクルックカフェへと、つなぎ、カフェスロー、オハナカフェ（ツリーズカフェ改め）、ビーンズキッチン、ふろむあーすなど、水田トラストを若者へ広げる媒介となってくれています。

水田トラストの社会的意義が理解され、広がっていくことは、わたし達にとって住みやすい環境と健康な食べ物が広がっていく事を意味します。

さわのはなの健康を修復する力、おいしさが、水田トラスト=さわのはなのイメージを広げているように感じています。

これまで、変わりなく水田トラストを支持してくださった会員の方々に、そして、変わりなく心を込めて生産してくださった栽培者のみなさんにこころから感謝いたします。

ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ネットワーク農縁・新庄水田トラスト事務局　阿部文子・スタッフ一同

アースデイマーケットは盛況でした

水田トラストの会員さん古川さつきさんは、仙台在住、地域通貨「パワー　トウ　ザ　ピープル」（PP）の中心的存在です。

古川です。
この1週間はヘタっていました。
ようやく今日、東京朝市で買ったキクイモや岩茸を漬けたり下処理をしました。それに昨晩届いた有機野菜一箱！久々に家事に専念しました。
東京朝市は盛況でした。行く度に盛り上がってきています。
ブースが隣になった農家の方たち（助っ人がいっぱい）はネットで見て初めて参加したそうです。「rって何？」「地域通貨って何？」と興味津々。「物が流通する一つの方法だね。よし、うちもしよう！」私は「rをそのまま使ったら楽だと思いますよ。」とお節介しました。
地域通貨は趣味の域を出そうにありませんが、確かに「r」は一種のステータスシンボルになるかもしれません。

前に入会してくださった品川の黒岩さんが、親子で見えて店番してくださいました。私が遊んで帰ると、あれもこれも売ったと言うのでびっくりしました。バザー慣れしているようです。天性のものもあるのでしょうね。感謝！
PPではなくrやNで労賃をお支払いしました。やはりどこでも使えるほうが便利ですからね。

きぶどうジュースをいつも飲んでいるという方が言っていましたが、その行きつけの店ではポイントを集めているので結構安く手に入るとのことでした。どこでもポイントのご時勢、全額地域通貨でもなければ、その方にとって興味の対象にはならないことでしょう。
東京は活気に満ち、豊かで別の国のようでした。

世代を超えて　2006年から2007年へかけての
有機農業を　より身近なものにし
GMOをやめさせる行動　『種まき大作戦』

12月2日集会＆記念パーテイ-を始めとして、これまで遺伝子組み替え問題を担ってきた全共闘世代とその子世代が、2007年を通してコラボレーションする「種まき大作戦」が開始されます。
遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン、ネットワーク農縁、トージバ、アシードジャパーン、グリーンピース、生活クラブ、有機農研など、中心になって、いろいろやっていきます。楽しみ-。東京朝市アースデーマーケットもそのひとつです。

現在　決まっているイベント

2006年12月　2日（土）　遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン
10周年記念集会＆記念パーテイ　P1時より
場所　全郵政会館　電話０３－３４９７－１６５５

2006年12月9日（土）　ネットワーク農縁・合同収穫祭

A11時じより

場所　宮前区　子どもの家もも保育園電話044－860－2415

2006年**12**月**10**日（日）　アースデイマーケット収穫祭
場所　カフェスロー　電話０４２－３１４－２８３３
2006年**12**月**30**日（土）　種まき大作戦のつどい
場所　カフェスロー（予定）
2007年**1**月**30**日（火）　大豆畑トラスト全国集会
場所　三軒茶屋　キャロットタワー　連絡は
キャンペーン小野さん　０３－５１５５－４７５６まで
2007年**3**月**21**日（祭）生命特許を考えるシンポジゥム
メイワンホーさん　ション・マクドナーさんを迎えて
場所　未定　連絡先　ポールさん　３０－３４２７－９４２７

２００７年のアースデイマーケットは、現在のところ以下の日程で開催予定です。

第1回	5月27日（日）
第2回	6月24日（日）
第3回	7月22日（日）
第4回	8月19日（日）※
第5回	9月23日（日）
第6回	１０月21日（日）
第7回	１１月11日（日）※

遊牧民ネットワークとしての田舎ぐらし

text:田中正治

1998年から5年間、房総半島・鴨川の山中にある"鴨川自然王国"で企画やイベントのコーディネーターとしての仕事をした後、僕達夫婦は、2003年"自然王国"の近くに永年移住をした。
西畑地区という19軒の農家で構成される部落で、大黒柱は団塊の世代が多いが、ほとんどはサラリーマンで、土・日百姓をしている兼業農家だ。

僕が移住してきたことが、部落ではちょっとした話題になり、"さて、どのように付き合っていったらよいものか？"と寄り合いがもたれ、そこでA, B, C案を僕に提示しようということになったらしい。A案は、僕が別荘感覚で住むのなら、部落は軽く付き合う。B案は、僕が冠婚葬祭まで付き合うのなら、部落もそのように付き合う。C案は、僕が骨を埋める氣で、どっぷりと付き合うのなら、部落もそのように付き合う、というものだった。なんと合理的な提案ではないか！僕は、"C案で行きます"と答えた。
部落の寄り合いに行くと、驚いたことに、ご近所の女性と結婚したイラン人が参加していて、流暢な日本語で、礼儀正しく挨拶した。"おお、いい男じゃないか"と長老達も、けれん味なく自然体で受け入れていて、いい感じだった。

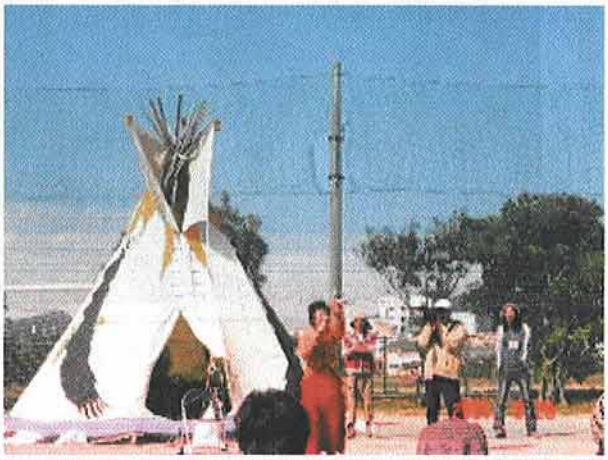
実は、この西畑部落から1500m離れた小高い山の上に、そこは鴨川の源流なのだが、都市の産業廃棄物最終処分場建設の計画があって、部落は賛成は1名、反対派約10名、中立派その他、といった分かれ方をしているようなのだ。僕は"反対"の旗色を鮮明にした。うれしいことに、団塊の世代を中心に"ふるさとを愛する会"という反対グループが、部落の寄り合いとは別に出来ていて、署名運動や水質検査のどの反対運動をすでにしている。ラッキーなことに"鴨川の環境を守るネットワーク"というグループの中で、僕も地元の人達と一緒に会議や行動をすることになった。そのせいか、地元の人から特別冷たい視線を感じることはなく、むしろ温かい視線を感じることが多い。産業廃棄物処分場反対という共通の課題という新しい共通の受け皿が、別の新しい人間の結びつきを作ったのである。

2年間、この集落の中に住んで思うのだが、集落の最大のイベントは大山不動尊の夏祭りで、それ以外は盛り上がりが感じられない。夏祭りは、東京に出て行った息子や娘が帰って来て祭りに参加するからである。

でも、部落の寄り合いでは、予想に反して実に活発な論議がなされる。それも長老達におもねるわけでもなく、自由で礼儀正しく、時にユーモア豊かに意見を臆せず述べている。これは都会の市民運動の会議よりひょっとすると活発だという印象で、驚きだった。多分それは、江戸時代から続く人々のコミュニケーションの優れた伝統のように思われる。
だが、この部落の寄り合いからは、時代への新しい挑戦やアイディアはもはや出てこないように感じられる。部落には若者がいないのだ。では、新しいものへの挑戦やアイディアはどこから来るのだろう。僕は都会からだと思う。地域活性化の決め手は、"若者、馬鹿者、よそ者"とよく言われるが、その通りで、彼らが風を送り込んでくるようだ。

1985年当時、"若者、馬鹿者、よそ者"だった藤本敏夫氏が、鴨川の山中で"自然王国"を建設し始めた頃、"過激派の親分がきたぞ"ということで、ちょっとした騒ぎとなったとのことだ。でも彼と加藤登紀子さんの魅力でか、5－6人の近所の農家が、農事組合"鴨川自然生態農場"の理事になったのだからちょっとした驚きだ。現在、鴨川の人気スポットになっている"大山千枚田"のオーナー制やトラスト制の代表である石田三示氏も、当時藤本氏にもろに感化された地元若者の一人だが、都会人のアイディアをドンドン受け入れ、放棄されていく棚田を美しい人気スポットに変えている。地元農家のじいちゃん、ばあちゃんが"先生"になって、都会人に田植えの仕方などを教えている。オーナー制田トラスト制という新しい"場"を作ることによって、農的な共通の価値を共有する都市と農山村の人達が共通のプロジェクトを進めているのである。田植え時には800名くらいが参加する。地元の人たちは、都会人をどこか警戒しながら、同時にコンプレックスを持っているとのことなのだが、棚田オーナー制で"先生"になることによって、警戒とコンプレックスはじいちゃん、ばあちゃんからほとんどなくなっていると石田さん言う。

世界を放浪した末、鴨川の山間部の古民家に住み着いた若者・林夫妻が提唱した"地域通貨・安房マネー"は、現在の所、都市からの移住者が多いが、地元のフットワークの軽い人が徐々に参加してきている。農山村でもおもしろいこと、新しいことに興味を持って参加してくる人は、やはりいるのだ。時間はかかるだろうけど。20年—15年前に移住してきた都会人達は、過激派じゃないかとかオームじゃないかと警戒もされ、結構苦労したと聞くが、そのご苦労があってか、最近の移住者が、いじめられているという話は聞かない。これだけ移住者が多いと、地元の人たちも、合理的に解決して迎えいれちゃおうということになっているのかもしれない。



加藤登紀子さん（鴨川に住民票を移した）が始めた"鴨川未来たち学校"も、過去2年間で6回のイベントを開催していて、延べ千数百名の地元人たちが参加した。川、海、土、森、化学物質をテーマに環境への地元の関心を高めながら、産業廃棄物処分場阻止の底流を広げている。そんなこんなで、農山村での都市からの移住者の役割は創造以上に大きいと感じている。おもしろいアイディア、企画、コーディネーター、ネットワーカーとしての役割が期待されるのだ。

古い「村落共同体」は、1960年代に農山村に貨幣経済、資本主義経済が押し寄せ、自給自足経済が解体していった過程で、内部の創造的エネルギーを喪失し形骸化したと思われる。現在、農山村には資本主義経済だけでなく、その価値観も完全に浸透している。時代は一回転したようで、むしろ、都会の最先端部で、脱お金、脱資本主義的価値観が若者達をとらえ始めているのではないだろうか。彼ら都会の若者達が、農山村に移住し、新しい価値観で運動や事業を展開するとき、古い村落共同体に代わる、創造的なコミュニティーの可能性が開かれるだろう。そのことが長い目で見れば、農山村で移住者が、地元の人たちにもっとも貢献できることではないかと思う。

もちろん、田舎に"ひきこもる"ことはない。多くの都会からの移住者は、都市とのネットワーキングを縦軸に生計を立てている場合が多いのであるから、都市と農山村を自由に往還する、"遊牧民的ライフスタイル"がむしろトレンディーだと思う。自由と世界の可能性を羽ばたかせるところに人生の面白さがあるのだから。